

保護者様・地域の皆様

世田谷区立八幡山小学校
校長 山村 晃一

前年度の改善方策について実行した改善結果

保護者・地域の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。令和4年度の改善方策を受けて、令和5年度に実行した改善結果を下記の通り、ご報告致します。

提言1 学校行事を通して、他者と協働しながら、多角的に考える力を育成する。

【提言1を受け改善した内容】

- ① 5月以降のコロナ禍の収束によって、全ての学校行事を実施しました。
- ② ハチリンピック(運動会)は、コロナ禍以前の形に全て戻すことはできませんでしたが、一部の内容(高学年のリレーなど)を改善し、子供たちに達成感を味わわせることを目指して実施しました。
- ③ 遠足、社会科見学、宿泊行事等の校外での学習活動を、全て行いました。

【提言1を受け改善した結果】 ※ ()は前年度に比べたポイント

| 児童アンケート | 肯定的回答 | 保護者アンケート | 肯定的回答 | 地域アンケート | 肯定的回答 |
|--------------|-------------|--------------------------|-------------|-----------------|-------------|
| 学校行事は楽しい。 | 84% (+5) | 学校行事は子どもにとって楽しい。 | 97% (+2) | 学校行事の内容は充実している。 | 83% (+4) |
| 学校行事は達成感がある。 | 76% (-2) | 学校行事は子どもにとって達成感がある。 | 94% (+3) | | |
| 先生たちに相談できる。 | 62% (+5) | 子どもと先生とのコミュニケーションがとれている。 | 85% (+9) | | |

- ◎ 5月の新型コロナウイルスの5類移行に伴い、多くの教育活動が以前の形に戻ることができました。学校行事についても、単に以前のものに戻すのではなく、コロナ禍での経験を活かして新たなものを創造する意識で、取り組んできました。「学校行事は楽しい」の肯定的評価は、児童、保護者、地域ともに昨年度よりも高くなりました。この学校行事の取組を通して、他者と協働する場面が生まれます。ただし、そのことで多角的に考える力を育てることができたかどうかについては、適当な質問項目がありませんでした。「達成感」については、児童が2ポイント下がってしまいました。学校行事の主役は児童です。児童の達成感を味わわせるためには、どのような学校行事が必要か、常に考えながら行っていく必要があります。

提言2 「学び舎間で多世代交流を深め、人との関わり方や「なりたい自分」を創造する力を育成する。

【提言2を受け改善した内容】

- ① 中学校の生徒会と各小学校の代表委員会をオンラインで繋ぎ、それぞれの学校紹介を行って、情報交換会を実施しました。
- ② 5年生と1年生が、幼稚園・保育園と複数回にわたり、直接的な交流会を行いました。
- ③ 地域の行事(子どもまつりやボッチャ大会等)において、中学生のボランティアの生徒と児童が関わる場面

が見られました。

| 児童アンケート | 肯定的回答 | 保護者アンケート | 肯定的回答 | 地域アンケート | 肯定的回答 |
|------------------------------|--------------|---------------------------|--------------|---------------------------|-------------|
| 学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。 | 37% (+27) | 学び舎の区立中学校についての情報が提供されている。 | 56% (+19) | 学び舎の活動について、十分な情報が提供されている。 | 67% (-7) |

【提言2を受け改善した結果】

◎ 学び舎の活動についても、昨年度までの様々な制限が解除され、実効的な活動がなされたため、児童・保護者ともに評価が上がりました。ただし、そのことで人との関わり方や「なりたい自分」を創造する力を育てられたかどうか、について適当な質問項目がありませんでした。「なりたい自分」を考える上でひとつのヒントになるのが、中学校で活躍している先輩の姿です。身近な生徒をまぶしく見つめる中で、あこがれの先輩に少しでも近づきたいと感じるかもしれません。そういった機会として、学び舎の交流を大切にしていかなければなりません。

提言3 安心して過ごせる地域を目指し、学校・家庭・地域がそれぞれの活動の理解を深め、子どもを真ん中に考える関係を作り、協働する。

【提言3を受け改善した内容】

- ① 様々な想定を取り入れた避難訓練を毎月実施して、児童に「自分の命は自分で守る」意識を育てました。
- ② 学校だより、すぐーる、ホームページ等で、学校の様子を定期的に発信しました。
- ③ 学校公開や学校行事の実施方法を工夫し、多くの皆さんに学校の様子をご覧いただけるようにしました。

【提言3を受け改善した結果】

| 保護者アンケート | 肯定的回答 | 地域アンケート | 肯定的回答 |
|--------------------------|-------------|----------------------------------|--------------|
| 本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。 | 70% (+2) | 学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子がわかる。 | 100% (±0) |
| 本校は、地域の活動などに協力的である。 | 67% (+1) | 学校公開や道徳授業地区公開講座などで、学校の様子がわかる。 | 88% (+2) |
| 本校は、地域に情報を提供している。 | 62% (+4) | 地域の人や施設を、教育活動に生かしている。 | 85% (+2) |
| 学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。 | 77% (-3) | 学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。 | 88% (-9) |

◎ 学校・家庭・地域の繋がりを問う項目は、保護者・地域ともに昨年度より高くなりました。安心・安全な学校づくりの項目については、保護者・地域ともに若干下がったものの、約8割の肯定的評価をいただきました。安心・安全な学校を中心に、学校・家庭・地域が密に連携し合い、その中心に子供たちがいる、という関係ができていると考えられます。

提言4 学校・家庭・地域が連携して、大人や友達同士でコミュニケーションをとり、進んであいさつができる子どもを育成する。

【提言4を受け改善した内容】

- ① 「八幡山あいさつスタンダード めざそう！あいさつマスター！」を全教室に掲示し、発達段階に応じてあいさつについての指導を行いました。

② あいさつキャンペーン期間を年間3回実施し、児童にすすんであいさつをしようとする意欲付けを図りました。

③ 生活指導の月目標や週目標に、あいさつの項目を設定して、重点的に指導を行いました。

【提言4を受け改善した結果】

| 児童アンケート | 肯定的回答 | 保護者アンケート | 肯定的回答 | 地域アンケート | 肯定的回答 |
|---------------|-------------|------------------|-------------|------------------|-------------|
| すすんであいさつができる。 | 67% (+7) | 子供たちはよくあいさつができる。 | 67% (+2) | 子供たちはよくあいさつができる。 | 79% (-1) |

◎ 今年度の生活指導では、「あいさつ」を重点に指導をしてきました。あいさつスタンダードやあいさつキャンペーンなどの様々な策を講じたことで、児童のすすんであいさつをする意識は高まりをみせています。しかし、まだ目標とする8割には至っていません。あいさつマスターの「自分から先に、相手の顔を見て、元気な声と笑顔で、あいさつがいつでもできる」姿を追求していきます。

以上、令和5年度に実行した改善結果のご報告となります。